

令和元年度 建築設備工事東北ブロック会議

(一社) 東北空調衛生工事業協会 副会長
大成温調(株) 東北支店
支店長 佐藤 光好



令和元年12月4日(水)午後3時より、(一社)日本電設工業協会東北支部並びに(一社)日本空調衛生工事業協会東北支部と主要発注機関とによる「令和元年度建築設備工事東北ブロック会議」が、仙台市青葉区の江陽グランドホテルに於いて開催されました。

官公庁側より、東北地方整備局、東北防衛局の中央官庁関係者と青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島各県及び仙台市の設備関係ご担当者、総勢18名の御出席をいただきました。民側は両協会本部・東北支部合わせて44名の参加により盛大に開催されました。

式次第は、次のとおりです(敬称略)

- 開 会 司会進行 一般社団法人 日本電設工業協会 東北支部
事務局長 武田 敏博
- 挨拶
民側代表 一般社団法人 日本空調衛生工業協会 東北支部長 佐竹 毅彦
官公庁側代表 国土交通省 東北地方整備局 宮繕部長 板橋 薫



佐竹支部長



板橋宮繕部長

3. 協会本部からの挨拶

- 一般社団法人 日本空調衛生工事業協会 専務理事 中島 義勝
一般社団法人 日本電設工業協会 専務理事 内田 俊彦



中島専務理事



内田専務理事

4. 意見交換事項

官公庁側座長 国土交通省東北地方整備局 営繕部 設備技術対策官
神鳥 博俊
民側座長 一般社団法人 日本電設工業協会 東北支部長
佐竹 勤

- (1) 働き方改革・建設業の担い手確保について
- (2) 分離発注の促進について
- (3) 総合評価落札方式での参加資格要件について
- (4) 工期延期に係る適切な費用負担について
- (5) 自然災害への対応について
- (6) 建設キャリアアップシステムについて

官公庁側



民側



5. 技術情報の発表

テーマ 「アルミ冷媒配管への取組み」について

発表者：三機工業株式会社 建築設備統括室 統括部長 上原 誠司



6. 閉会の挨拶

佐竹 勤 一般社団法人 日本電設工業協会 東北支部長

(一社) 日本電設工業協会東北支部 武田事務局長による司会進行のもと、はじめに民側の(一社) 日本空調衛生工事業協会 佐竹毅彦支部長より、「設備業界の最大の課題は、担い手の確保と・育成と働き方改革であり、労働時間の削減や休日取得ができなければ、ライフラインに携わっている我々の業界に若者の入職は減少の一途をたどってしまう。新担い手3法の成立を受け、「新しい3K」を実現していきたい」との挨拶がありました。続いて、官側を代表して国土交通省東北地方整備局 板橋宮繕部長様より、「担い手の確保と技能・技術の継承に向けて発注者として様々な取り組みに対応していく。本日のこの場を通じて相互の理解を深めたい」とのご挨拶を頂きました。

次に、両協会本部の専務理事から、最近の活動内容を交えながら各々ご挨拶を頂き、その後協会側が提示した意見交換事項に対し、官公庁側からご回答を頂く形式で進行しました。ご出席の東北地方整備局、東北防衛局、各県、仙台市のご担当者様から見解を頂き、活発な意見交換を行いました。会議内容の詳細につきましては、後日各会員宛に議事録が送付されますのでご参照願います。

続いて、三機工業株式会社 建築設備統括室、上原統括部長より「アルミ冷媒配管への取組み」のテーマで技術発表を行って頂きました

最後に（一社）日本電設工業協会 佐竹東北支部長から閉会の挨拶があり会議は終了し、その後引き続き懇談会を開催し、（一社）東北空調衛生工事業協会 小林会長の中締により閉会となりました。

「官公庁ご出席者名」（敬称略・順不同）

東北地方整備局	板橋 薫	営繕部長
〃	武石 静夫	営繕部 営繕品質管理官
〃	神鳥 博俊	営繕部 設備技術対策官
〃	浅井 一成	営繕部 整備課 課長補佐
〃	佐藤 大介	営繕部 整備課 課長補佐
〃	高橋 太	企画部 情報通信技術課 建設専門官
〃	本間 光義	建政部 建設産業調整官
〃	阿彦 佳	建政部 建設業適正契約推進官
東北防衛局	小山 貴弘	調達部 設備課長
〃	菅野 哲也	調達部 設備課 課長補佐
青森県	柿崎 英明	県土整備部建築住宅課 営繕指導グループマネージャー
岩手県	高橋 耕雄	県土整備部建築住宅課 設備担当 主査
宮城県	柳澤 昭博	土木部 設備課長
〃	渡辺 哲也	土木部 設備課 機械設備班 技術補佐
秋田県	白幡 俊和	建設部 営繕課 設備班 主幹兼班長
山形県	田中 万博	県土整備部 建築住宅課 営繕室 室長補佐（設備技術担当）
福島県	渡邊 輝義	土木部 営繕課 主査
仙台市	加藤 民夫	都市整備局 公共建築部 設備課長

以上18人